

平成23年度第2回宇都宮市民大学運営協議会議事録

- 日 時 平成23年8月9日(火) 午前10時～11時40分
- 場 所 人材かがやきセンター 研修室(中央生涯学習センター5階)
- 出席者 委員 8名(齋藤会長, 半田副会長, 石野委員, 高橋委員, 竹澤委員, 花積委員, 増田委員, 渡辺委員)
- 事務局 10名(生涯学習課長, 課長補佐, 外8名)
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴人 0人
- 会議次第
- 1 開会
 - 2 挨拶
 - 3 議題
 - (1) 宇都宮市民大学運営協議会における監事の指名について
 - (2) 平成23年度宇都宮市民大学前期講座実施状況について
 - (3) 平成24年度宇都宮市民大学の実施等について
 - (4) 平成23年度市民大学運営に関する変更点等について
 - (5) 平成24年度市民大学の実施について
 - 4 閉 会

【挨拶】

○ 会長挨拶(齋藤会長)

本日は, 多数の委員のご出席誠にありがとうございます。

今回新たに2名の委員を迎えることになりました。よろしくお願ひします。

昨年度, 地域教育推進に伴う運営方針・組織体制の見直しを行い, 専門講座コースの「コミュニケーション学」の追加や, 講座の企画選考委員に外部の学識有識者に加わっていたとくという大きな変革の後, 初めての講座実施となりました。社会教育的な考え方をこの講座に取り入れたということでもあります。

去る6月6日の合同開講式・公開講座により開講した前期の市民大学も, 一週間前の8月2日に滞りなく全講座を終了することができました。合同開講式の出席者は222名。茨城大学の准教授・長谷川幸介先生にお話しをいただき, 本市の狙っているところをずばり, おもしろくお話しをいただきよかったです。市民大学講座はここから新しい雰囲気をもって展開していくこととなります。

今回は前期講座の実施状況と, 平成24年度の市民大学の実施についてご審議をいただきたいと思ひます。運営協議会・事務局・生涯学習コーディネーターの連携を深めまして, より良い市民大学にしていきたくと思ひます。

結びとなりますが, 委員の皆様には忌憚のないご意見をお伺ひしたいと思ひます。

【質疑応答等】

○ 議題

(1) 宇都宮市民大学運営協議会における監事の指名について

→菅家氏に変わり，竹澤氏が監事に承認された。

(2) 平成23年度宇都宮市民大学前期講座実施状況について【資料1】

齋藤会長) 全般的には，これまでよりもいい反応が出ており，受講生のいろいろな考え方が反映されてきている。

大学も学生から評価を受けるようになってきているので，この市民大学も同じような状況にあると感じる。参考資料の最後の意見は，今後こうしてほしいという願いが述べられているが，これは学生でいうと「できる」学生からの意見で，講座を受けた後，もっと深く学びたいという気持ちの現れだと思う。

何かお気づきの点がございましたらご指摘いただきたい。

半田委員) 講座内容の表中に，講師全員の名前を入れた方がいいと思う。「ほか」と記載された方々は記載のある講師と格が違うとか，そのお弟子さんなのかと思ってしまう。平等であれば全員の名前を私たちも知りたいので記載してほしい。入れない理由はあるか。

事務局) スペースの関係により，初回の講師を記載した。次回より全員の名前を記載する。

(3) 平成24年度宇都宮市民大学の実施等について【資料2】

・平成23年度市民大学運営に関する変更点等について

(質疑なし)

・平成24年度市民大学の実施について

齋藤会長) コーディネーターの選考委員会参画については，コーディネーターを中心として，透明性・合理性を勘案して，市民大学講座を一層前進させていくためにがんばってもらうということで，この案ができたと理解する。

いろいろな関係者が足りないところを補い，いろいろな場面で参画し，結果として市民から高い評価があがってくる。いろいろな方式で結果がものという。理屈ではいろいろあるが，現時点においてはやったほうが良い結果が出るだろう。

竹澤委員) 2段階の審査となる。この結果を再度協議するということだが，企画案自

体には優劣つけがたい場合があるだろう。

コーディネーターの意見を参考とし順位に逆転が生じた場合は、みんなが納得できるような仕組みが必要ではないか。方法をきちんと作っておくべき。

齋藤会長) 最終的には話し合いの結果で決定するものである。

事務局) 事務局としても、選考委員会の中でコーディネーターの意見を同等に扱っているのかという意見もあり、苦慮したところであるが、最終的には選考委員の審査結果を運営協議会で決定する提案とした。

齋藤会長) 選考委員の判断が、逆転しない方がよいのだが、逆転した場合は協議する。

石野委員) 昨年度、選考委員長を務めたが、企画者が20人おり選考委員が9人。委員1人分の持ち点をコーディネーター数5人で割るというが、5人が強く主張するかもしれないし、仲間へのバックアップともなり得る。また5人の意見を全て聞くことは現実に厳しい。人数を絞り込む必要があるのではないか。

事務局) コーディネーター審査の参加者は、自身またはグループが提案者であれば参加はできない。悩ましいのは、親しい仲間の提案などへの肩入れがあるかもしれない。

あくまでも選考委員9人の意見により決定される。よって、コーディネーターの意見はあくまでも参考という考えである。コーディネーターの参画人数は、本日のご指摘を参考とし、事務局で再検討させていただきたい。

花積委員) たくさんの人が入れば入るほど、審査しにくくなるのではないか。プレゼンテーションの時間も限られている。コーディネーターは、自分の提案がどのように選考されたかを知りたいという気持ちが強いのだと思う。

どうしても参画させるなら、人数は少ない方がよい。コーディネーターとしては、思いが強すぎ、全体を見られない。

どうしても採用されなかったかを、言葉で補ってもらいたいのでは。

齋藤会長) いろいろな関係者がお互いに足りないところを補いながら参画することが大切だと思う。今回事務局も非常に苦労して新しい案を考えた。この案はそぎ落とす部分もあると思うが、調整力抜群の方が揃っているので、運営協議会にかけて解決できる部分もあると思う。

半田委員) 委員と同様の審査をして、審査内容は参考とされる。私も5人はどうかと

思うが、その意見を運営協議会に持ち込めばよいのでは。社会教育という視点を失わなければいいのではないか。

高橋委員) 審査はコースごとに行うということでいいのか。
原則的な趣旨について異論はない。

事務局) 審査はコースごとの審査である。

石野委員) コーディネーターは採点の協議には参加せず、プレゼンには参加し、持ち点は、委員1人分を人数で割る。あとは調整されたい。

齋藤会長) コーディネーターの代表が選考委員の中に入ると数の問題となると思うので生涯学習課とコーディネーターの今までの関係を考えると、要望を重視するのが今は大切ではないか。まずは実施する方向で検討されたい。

(4) その他【参考資料】

高橋委員) 後期に実施される専門講座のコース分野の内訳はどうなっているか。

事務局) 「もっと！たのしいまち宇都宮になるか」は、ふるさと地域学コース。「セカンドライフを豊かに」は、今を読み解く現代社会コース。「考える楽しさを発見しよう」、「かぜとなりたや」、「(仮題) 世界、地域、教育の視点から陶芸について考える」は、暮らしを彩る教養・文化コース。「(仮題) 東日本大震災と日本人の心、そして「こころ」のケア」は、コミュニケーション学コースである。

半田委員) コーディネーターの講座企画運営費を課題としているが、年度をまたぐことに関する対応案はあるのか。

事務局) 対応策はまとまっていない。年度を超えた予算の執行はできないため、4月以前にかかる分の助成は困難である。市からの交付金が入る前には助成できない。

齋藤会長) 円滑な議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。